人文科学専攻

―学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針―

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【教育理念と目的】

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学などの多様な学問分野から構成されています。これらはいずれも人文科学の根幹をなす学問分野であり、本専攻では高度な専門教育を通して、それぞれの学問領域の研究を深化させることをめざします。ただし、近年の人文科学には、自領域にとどまらず他領域との関わりの中で知を探究する複合的で学際的な視野も必要とされています。

本専攻の目的は、上記の人文科学系の学問分野における高度な専門知識を身につけ、学際的な視野にもとづく研究能力と実践的な分析能力を培い、自らの考えや研究成果を発信する研究者を育成することにあります。

【身につけるべきカ】

本専攻は、「比較文化学講座」と「社会人間学講座」の２講座から構成されています。

比較文化学講座においては、歴史や文学、言語に対する深い専門知識と、自国及び他国、他地域の多様な文化への幅広い学際的な視野にもとづいた研究能力を備えることを特に重視しています。また、歴史都市「奈良」で研究する利点を生かして、日本、アジアと欧米の様々な文化を比較文化論の視点から分析する力、多様な観点からの総合的な知の探究を実践する力、内外に向けてそれを発信する力を身につけることを求めています。

社会人間学講座においては、社会、文化、地理環境、人間関係、教育などに関する総合的で高度な知識と理論を十分に備え、個々の領域での独創的かつ専門的な研究能力と実践的な分析能力を身につけることを特に重視しています。また、社会と地域に関する諸課題に取り組むための方法論を習得し、人間行動の統合的探究及び生活環境の構築に貢献する実践力やその成果を内外に発信する力を身につけることを求めています。

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を取得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に博士の学位を授与します。付記する専攻分野の名称は「文学」、「社会科学」、「学術」のいずれかで、学位論文の内容が文学に関連した内容が主である場合には博士（文学）、社会科学に関連した内容が主である場合には博士（社会科学）の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、博

士（学術）を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

人文科学専攻の学生は、自ら志望する研究分野をもとに、専門性を深化させるための専修系か、諸学問を複合的に洞察するための複合系かのいずれかの履修系列を選択します。

専修系の履修系列を選択した学生は、論文等作成群、専門科目群の必修科目から３単位（「博士論文執筆指導」（２単位）、「研究倫理・研究マネジメント」（１単位））、専門科目群の選択科目から６単位以上、大学院共通科目群や複合系プログラム科目群の中から１単位以上を含み、合計 12 単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となります。

複合系の履修系列を選択した学生は、論文等作成群、専門科目群の必修科目から３単位（「博士論文執筆指導」（２単位）、「研究倫理・研究マネジメント」（１単位））、専門科目群の選択科目から３単位以上、複合系プログラム毎に指定された大学院共通科目や複合系プログラム科目の中から４単位以上を含み、合計 12 単位以上を履修し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となります。

専修系の履修系列を選択しても、学際的な視野を身につけることができるよう、複合系プログラム科目群や大学院共通科目群を履修することを推奨しています。

専門科目は学生の研究分野に応じて履修することになりますが、１年次の専門科目「研究倫理・研究マネジメント」は必修科目となっています。「博士論文執筆指導」は、博士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

比較文化学講座においては、高度な知識を身につけ、研究能力を培うために、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の歴史、言語、文学に関する専門科目の授業は基本的に演習方式で行い、また必要に応じて調査やフィールドワークも採り入れています。外国研究では、当該地域の言語を用いた教育も行っています。また、歴史都市「奈良」についての学びを深めるため、国立文化財機構奈良文化財研究所や奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所から客員教員を迎えて、特色ある授業を開講しています。

社会人間学講座においては、社会、文化、地理環境、人間関係、教育などに関する総合的で高度な理論と方法論を習得するために、専門分野に応じて、演習形式の資料読解や調査・分析、フィールドワークの実践などを織り交ぜた教育を行います。

また、両講座とも、当該分野の研究者に求められる倫理とマネジメント意識を涵養するために、「研究倫理・研究マネジメント」を専門教科の中に位置づけ、かつ１年次の必修科目としています。さらに、進路の多様化に対応するために、キャリア開発関連の科目も開講しています。このほか、女性のライフイベントに配慮した長期履修制度もあります。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法に基づき、公正かつ厳格に行います。博士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学など人文科学系の学問分野における高度な専門知識と判断力を身に着けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

比較文化学講座は、社会事象――言語認識、西欧世界――アジア世界という二つの基軸を立て、歴史学、文学、言語学などの文化に関わる多様な学問分野からこれを比較研究することを目指しています。高度な専門知識と判断力を身に着けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

社会人間学講座は、社会、文化、地理環境、人間関係、心理、教育などの分野に関する高度な専門的知識を備え、論理的思考力と規範的判断力によって、主体的かつ協働的に社会の課題解決や福利実現や価値創造に向かう、独創的な研究能力と実践的構想力と行動力を身につけることを目指しています。各分野の観点を軸にして、環境、社会、文化における人間行動を統合的に探究し、よりよい社会のあり方と生き方の構築に貢献する能力を備えた人材を養成します。

本専攻の求める学生像は以下の通りです。

【求める学生像】

・大学院での研究をもとにして、社会に貢献する意欲と熱意をもつ人
・人間の営みとしての文化現象を、情報の観点から分析し研究することに関心をもつ人
・ジェンダー・文化振興などの分野での専門的リーダーとして活躍しようとしている人
・インクルーシブな社会の実現あるいは文化や産業の振興において、教育・研究機関の研究者、または、行政、地域再生、社会福祉事業、NPO、NGO などの高度専門職におけるリーダーとして活躍しようとしている人
・文献や資料の読解から、実験や調査、研究発表を含む研究活動において、必要な外国語能力を有している人
・国際的、特にアジア地域の発展に貢献しようとしている留学生、社会人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において修士論文またはそれに相当する学術論文の作成を通じて、上記にある分野の先端的研究に必要な専門知識、問題意識、資質・能力・活用力（思考力、判断力、表現力）、多様性において対話または協働する主体的な姿勢・態度、研究に必要な外国語能力を身につけていることが必要です。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多角的・適正に受け入れるために、以下の方法により選抜します。

（１）一般選抜

個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心に行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では分野によっては入学後の教育に必要な外国語能力の審査を含む場合があります。

比較文化学講座の口述試験では、研究計画、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、言語コミュニケーション能力を評価します。なお、比較文化学講座では、主として文献をあつかう分野であることから、筆記試験を行うことで外国語を含む文献読解力や文章表現力を評価します。合否は、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。

社会人間学講座の口述試験では、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、修士論文等のこれまでの研究成果、後期課程での研究計画、発表能力（プレゼンテーション、説明力等）を評価します。合否は、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

（２）社会人特別選抜

多様な人材を受け入れるために、社会人を対象とした社会人特別選抜を行います。個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心に行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では、分野によっては入学後の教育に必要な外国語能力の審査を含む場合があります。合否は、比較文化学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。社会人間学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

（３）外国人留学生特別選抜

多様な人材を受け入れるために、外国人留学生を対象とした外国人留学生特別選抜を行います。個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心に行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では分野によっては入学後の教育に必要とする日本語能力の審査を含む場合があります。合否は、比較文化学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験）の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。社会人間学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

なお、上記の選抜では、社会人等多様な学生のチャレンジを促すために以下のような支援制度を設けています。

・長期履修学生制度

職業を有している等の理由で、一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られた学生を対象に、事情に応じて就業年限を標準３年からより長期に設定することが可能です。

・再チャレンジ型若手女性研究者支援制度

博士後期課程中退者を対象に、本学大学院博士後期課程で博士号の取得を支援する制度です。

・博士前期課程修了者博士号取得支援制度

修士課程を修了し、１年以上の社会経験を経た者を対象に、博士号取得を支援する制度です。